

1. よい会社をめざす
2. よい経営者になろう
3. よい経営環境をめざす

滋賀県中小企業家同友会会報誌 [同友しが]
VOL.462 2022年12月発行

12

2022 December



同友会の三つの目的
1. 理想は、しっかりと実現し続けること。実現は、継続すること。
2. 理想は、中々実現しない。実現は、継続すること。
3. 理想は、中々実現しない。実現は、継続すること。

滋賀県中小企業家同友会青年部10月例会
「真似されてこそ本物」が意味する本物のこだわりとは?
報告者: たねやグループCEO 山本昌仁氏



CONTENTS

- びわ湖かがやきカンパニー 有限会社 グリーン藤栄 … 2
- 青年部 10月 Welcome例会 …………… 7
- 支部・ブロック・委員会だより …………… 4
- 理事会だより・お知らせ …………… 8

同友遠近

今年の12月7日は二十四節気の「大雪」(たいせつ)です。今シーズンの「冬」はラニーニャ現象とやらで、たいそう冷え込むそうで、昨年同様、滋賀県北部では大雪(おおゆき)が予想されているようです。空気の乾燥で、新型コロナウイルスの変異株に加えて、今年はインフルエンザも流行するような報道を見受けまます。各位各社の社員さんの予防接種も進んだだければ幸いです。▼12月は、同友会行事も一段落いたしますが、各支部各委員会では望年会を企画されているかと思えます。この数年間は、なかなか集まって酒肴を交わすこともありませんでしたが、ようやく外食やレジャーが楽しめるような雰囲気になってきました。同友会は経営者の学びの会ではありませんが、それ以前に、異業種交流会です。やっとなら飲食を楽しめるようにならてきましたので、各支部各委員会ともゲストを招いてザックパンに親交を深めようではありませんか。▼同友会のスケジュールを振り返りますと、もはや2022年度も折り返しをとおに過ぎております。いよいよ来期の役員人事を意識していただかなければならなくなっています。今年度は各支部とも、さまざまな勉強会が開催されたり、委員会活動に取り組んでいただいています。増強にもその成果が現れてきています。もお見受けいたしますが、新しい酒は新しい革袋にという言葉があります。新メンバーをお迎えするのならば組織も新しく生まれ変わる良い機会かと思えます。思い切った人事配置が組織の拡大を生んでいくのではないのでしょうか。(カワベ)

理事会だより <第8回理事会報告>

と き 2022年11月2日(水) 16:00~18:00 ところ 琵琶湖ホテル
出席者 水野・永井・青柳・蔭山・赤井・上田・太田・小田柿・加賀山・笠井・川勝・川邊・嶋田・田井・田中・宮川(草)・松崎・三田村・八谷・廣瀬・奥村 オブ)大原・岩下 計23名

1. 水野代表理事より「来年から経営者の個人保証がなくなると報道されています。良いことですが、銀行の貸出が厳しくなるかもしれません。同友会の会員は黒字企業が世間より多いと中同協幹事会でありました。どのような環境下でも経営を維持し発展させる経営姿勢を貫いているからです。金融機関とは信頼関係が重要です。経営指針書を毎年更新し、金融機関に持参して自分の言葉で説明することが大事です」と挨拶されました。
2. 報告事項: 1) 第7回人を生かす経営全国交流会in徳島(加賀山・宮川) 2) 県立大学との第1回リカレント教育(青柳・水野・田中) 3) 第45期経営指針を創る会受講申込状況(加賀山) 4) 委員会・部活動(出席理事より)について報告がありました。
3. 承認事項: 入会1名、退会2名の提案が奥村事務局長代行より行われ承認。会員数は602名。赤井湖南支部長より研究会活動の案内を支障のない支部会員へe.doyuで送信したいと提案があり承認。
4. 協議・審議事項
1) 川勝例会委員長より、新春例会の講演テーマを「明けない夜はない! ~震災を乗り越えた老舗醤油屋の創る自社と地域の未来~」とすることの提案があり承認。各支部の参加目標が以下の通り決められました。高島 会員11名ゲスト2名、大津 会員28名ゲスト4名、湖南 会員30名ゲスト4名、甲賀 会員11名ゲスト2名、東近江 会員30名ゲスト4名、北近江 会員20名ゲスト4名の合計150名。2) 八谷青年部幹事長より、第19回近畿圏青年部合同例会を2023年11月に滋賀で開催する提案があり承認。3) 永井代表理事より、次年度理事候補者研修を2023年1月-2月に開催すること。支部役員研修会を2023年2月-3月に開催することが提案され承認。詳細は次回理事会で報告。4) 支部・ブロック長から会員増強月間の取り組みが報告され、支部増強目標を再確認。高島BL2人、大津支部10人(12月末まで)、湖南支部4人、甲賀支部1人、東近江支部10人(12月まで)、北近江支部2人。
5. 第9回理事会開催の件
とき: 12月2日(金) 理事会15:00-17:30 ところ: キラエ草津

2023新春例会のご案内

開催日: 2023年1月25日(水)
15:00~18:30 (受付開始は14:30~)
会場: クサツエストピアホテル
(草津市西大路町4-32)
報告者: 河野 通洋氏
(株)八木澤商店 代表取締役 / 岩手県中小企業家同友会
テーマ: 明けない夜はない!
~震災を乗り越えた老舗醤油屋の創る自社と地域の未来~
参加費: 9,000円 (講演と懇親会)
講演のみ 1,000円

河野氏は気仙支部の立上げ期からの中心的な存在です。東日本大震災により壊滅的な被害を被った時でも「1社も潰さない」をスローガンに、仲間の事業再生に関わり、地域づくりに関わり、地域の未来を切り拓いてこられた、その実践から学びます。

第7回 人を生かす経営全国交流会in徳島

滋賀から
10名参加

10月20、21日、JRホテルクレメント徳島において、中同協第7回人を生かす経営全国交流会が開催され、全国から340名、滋賀から10名が参加しました。

1日目は加藤明彦(株)エイベックス代表取締役会長(愛知)より問題提起があり、今だからこそ労使見解の精神に基づく経営指針の成文化と、ビジョンから経営計画に至る具体的実践が必要だとの報告がありました。

続いて日鐵鋼業(株)代表取締役の能登伸一氏(広島)、(株)シケン代表取締役の島隆寛氏(徳島)より人を生かす経営の実践報告がありました。

2日目は中同協経営労働・共同求人・社員教育・障害者問題の4委員長によるパネルディスカッションがあり、経営指針書をもとに四位一体の経営こそが危機を乗り越える力となること、『企業変革支援プログラムver.2』をもとに労使見解の精神を自社経営に具体化していきましょうとの提起がありました。



新会員ご紹介

第8回理事会にて承認されました。(敬称略・順不同)

澤井 孝之 (株) 沢井建設 代表取締役社長
〒520-2524 蒲生郡竜王町彩戸539 TEL 0748-57-0108
事業内容: 建設業(土木、建築、舗装、外構、法面処理工事)
紹介者: 河村 圭悟 所属: 東近江支部
竜王町で建設業を営んでおります。様々な業種で活躍されている皆様と交流させていただき地域経済に貢献できる企業になれるよう同友会で学んでまいりたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

会員動向

- 奥野 泰弘さん(東近江支部所属)が会社を法人化し、代表取締役に就かれました。会社名: テクノラボ(株)

輝く滋賀づくりをめざして、学びあう仲間になりませんか?

●入会希望の方は、下記までご連絡ください。
事務局 滋賀県草津市野路8丁目13-1 KE草津ビル1階
Tel 077-561-5333 Fax 077-561-5334

●ホームページからお申込み出来ます

社長の学び場





機械に入れ替え、経営主体を織物業から農業へ転換するという思い切った決断をしました。農作業の中で農薬による影響を肌で感じ、減農薬栽培から完全無農薬有機栽培での米作りを実現し、2000年代に入るとお餅を作って販売するなど農業の六次産業化にも乗り出しました。また、2003年には高島市と協力して自然環境を守りながら、農薬や化学肥料を使わない米作りを行う「たかしま有機農法研究会」を立ち上げ、同じ志を持つ仲間たちと「たかしま生きもの田んぼ米」を生産し始めました。

三男だった私は、東京でパレル業に就きましたが6年で帰郷し、家業を手伝ううちに父の勧めを受け、引き継ぐことに。2016年に2代目代表に就任し、前職での人脈や営業力を

活かして、市場開拓や六次産業商品の生産販売にも力を注いでいます。

収穫物を 自分たちで売り切る 「継続」できる農業へ 今後のビジョンとは。

梅村 一番難しいのは、農業を継続していくことです。自然が相手の農業はコントロールできない部分が多く、設備投資や資金面のほか、体力的にもキツイ部分があります。都会から田舎の農家に憧れてやってくる人もいますが、いざ農業をやってみると現実の厳しさから長続きしないケースが多いです。

藤栄には「農村環境を創造する農法で未来に繋ぐ」という理念があります。地球と人にやさしい農法を変えず、日本の「食」を守り、従業員の暮らしを維持しながら次の世代にバトンを渡したい。そのためには、自分たちで収穫したものを自分たちで売り切ること。シンプルですが、それをやっている農家はまだまだ少ないです。従業員にも、「一つの



こだわりが詰まった米で作るお餅は催事や通販サイトで人気商品に。



▲近江高島よもぎ大福餅

作業ばかりではなく、米作りからお客さま対応、販売まで自分で行って、最終、お客さま評価までもらって帰ってきて」と言っています。皆、そのやり方を楽しんでくれているので、人には恵まれていると思っています。

「たかしま有機農法研究会」でできた米の販路構築は、これまで藤栄が一手に担っていました。今後は弊社単独ではなく、他の農家も生産から販売までを行い、さらに広げていけたらと思っています。

藤栄の有機米や玄米を使ったお餅は、添加物などを使用せず、米のみを使用して毎朝作っています。一部、自家栽培するヨモギや小豆の品質にもこだわりのある



高島市安曇川町四津川1614番地
TEL:0740-34-1001
http://g-toei.com/

■同友会に入ったきっかけ
天平フーズの池田さんのご紹介で入会しました。

■同友会に入ってよかったこと
経営に関して熱心に研究され、勉強になっています。横のつながりも生まれ、自社の経営について前向きな刺激をいただいています。

有限会社 グリーン藤栄

びわ湖かがやきカンパニー vol.137



1975年創業。需要に伴い、それまで経営主体だった織物業から農業へと事業を転換。2016年から代表取締役役に就任し、農業の六次産業化に取り組む2代目代表取締役、梅村 光さん(滋賀県中小企業家同友会高島ブロック)を取材しました。
[取材/9月12日 (有)ウエスト]



「農業の手伝いから独立し、他の農家さんの跡継ぎになった人もいます。同じ想いで農業を引き継ぐ仲間を増やしたい」と梅村さん

食の安全、環境保全 未来につながる農業を
人や地球に配慮したお米を作られているそうですね。

梅村 藤栄では、25年前から農薬や化学肥料不使用のJAS認定有機米や減農薬米を生産しています。主な肥料には米や糠、竹の粉、魚粉などの有機肥料を使い、農薬や化学肥料を極力使用せず、土壌環境にも配慮しています。また、田んぼの周りに魚道を設置し、亀や蛙が登るためのスロープを付け、休耕田にはビオトープをつくるなど、圃場を支える生き物が棲みやすい環境を整えています。

大量生産、大量消費の時代から、現代は食の安全や価値観を見つめ直す時代へと移っています。

織物業から農業法人へ 地域を巻き込んだ取り組み
これまでの歩みとは。

梅村 祖父の代までは高島の地場産業だったクレープ(高島ちぢみ)生産を主体に、平行して農業を行っていました。祖父から引き継いだ父が事業を法人化しています。その後、地域農業の担い手不足を実感し、工場の機械り機を農業

農薬は食の安定供給を支えており、もちろんそのすべてを悪としていくわけではありません。手間はかかっても、安心して食べられるものを供給することで食の選択肢を広げ、地球環境の保護につながればと考えています。現在の生産量は約25町、自分たちでできる量を見極め、藤栄のお米のファンを増やしていけたらと思っています。

▲JAS有機認証 コシヒカリ

SHIGA KENKI 滋賀建機グループ

滋賀建機株式会社 TEL:0749-42-8668 ~大型マシンから電動工具までレンタルサービス~

滋賀基礎工業株式会社 TEL:0749-37-3282 ~徹底した安全性と技術力による基礎工事~

エスケイビルド株式会社 TEL:0749-37-3949 ~ハウス備品から足場まで、きめ細かなレンタルプラン~

エスケイ運輸株式会社 TEL:0749-37-8522 ~建設機械器具からハウス・トイレまで、確実に輸送~

戸狩温泉スキー場株式会社 TEL:0269-65-2359 ~スキーで遊んで、温泉でゆったり~

LIXIL不動産ショップ

ピアライフ

売買 賃貸 建築 開発 リフォーム

お問い合わせはフリーダイヤル 0120-73-6490

株式会社ピアライフ 大津市衣川一丁目18番31号 mail: info@pialife.co.jp
電話 077-573-6490 FAX 077-573-6491 営業時間 10時~18時 定休日 毎週水曜、第一三火曜

甲賀支部例会

経営課題をグループ討論

10月18日18時30分～21時まで、JAこうか貴生川支所にて甲賀支部例会を開催し15名が参加しました。今回は報告者を立てず、グループ討論をメインとした支部会員交流例会でした。2つのグループにわかれ、参加者の課題洗い出しの討論と課題解決の討論を行いました。特に採用と定着の課題を深掘りして議論をすすめ、保険業の参加者からは「採用に苦労している。イメージが悪いのかもしれない」、金融機関の参加者からは「営業だと数値目標を設定するが、そのことで営業が嫌厭される要因かもしれない」という発言がありました。ベテラン経営者より「経営計画を立てる以上数値目標は必要だが、個人の負担にならないようチームでサポートする体制をつくっていく必要がある」とのアドバイスがありました。



事業承継の姿勢に学び合う
10月18日(水)18時30分から21時までキラリ工草津にて「こうして私は『自分の会社』にしました」をテーマに、上野忠夫さん(株)トップ代表取締役(湖南支部副支部長)よりご報告頂き24名が参加しました。上野さんは第三者承継で会社を継ぐも、どこか自分の会社でないような感覚を持つていたそうです。経営指針を創る会を受講し、自分の大切にしたいことや仕事への信念を再確認することで、経営指針書を磨き上げました。同友会の仲間と叱咤激励をされながらも、先代の残した企業風土と上野さんの想いをまとめ上げ、事業の棚卸にも着手し、新しい(株)トップづくりに取り組まれてきたご報告でした。事業を引き継ぐ者、引き継がせる者双方とつて、どのような姿勢が必要なのかを学べる例会となりました。

湖南支部例会

事業承継の姿勢に学び合う



心の拠り所となる会社づくり
10月19日(水)18時30分～20時40分までで可登楼別館で開催され、20名が参加しました。報告者の小森俊彦さん(株)ビイサイドブランディング代表取締役は「下意上達の組織、社員さんが主体性を持ち、活躍する組織とは？」をテーマにご報告。同友会の青年部で「経営はビジネスモデルが肝心」「赤字の時は全力で黒字化を目指す」「自分がいなくても回る組織をつくる」ことを学びます。2017年に共同代表に。夢のような経営計画書を作つて自己満足したことも。2020年から一人代表で、自分と会社を棚卸し、経営指針書も不必要なものは省き、正論を押し付けず、会社と個人の将来を繋ぐことで、社員の心の拠り所となる会社作りを実施。結果、P D C Aが回り業績が伸び「やっとなりです」と報告されました。

高島ブロック例会

心の拠り所となる会社づくり



東近江支部例会
学生に選ばれる企業づくりを
10月27日(木)18時30分から20時40分まで、G・NETしがにて31名の参加で例会を開催しました。「学生から採用される中小企業とは」選ぶのではなく、選ばれる姿勢で臨む採用活動」をテーマに、片山幸博さん(南ウエスト代表取締役)よりご報告頂きました。

東近江支部例会

学生に選ばれる企業づくりを

長浜・米原ブロック例会

指針経営スタートラインに

10月25日(火)18時～20時30分まで長浜商工会議所にて長浜米原ブロック10月例会を開催し、21名が参加しました。報告者は(株)草川製作所代表取締役の草川雄一さんで、テーマは「いざ指針経営へ」技術で未来へ繋ぐ会社を目指して」です。草川さんより大学卒業後、システム会社で生懸命働くも会社の事業方針が失敗し過重労働となり退職、草川製作所に入社したことや、同友会入会后、経営指針を創る会を2度受講し経営指針書ができたこと、代表取締役就任したのを機に経営理念を見直し、実践していく決心をしたとの報告がありました。グループ討論では経営指針書の承継がテーマでした。承継した時点で自分の思いを整理し成文化したほうがいいのでは、という意見がありました。

彦根ブロック例会

社員と創る就業規則

10月27日(木)18時～20時30分まで彦根勤労福祉会館にて例会を開催し18名が参加しました。報告者は(株)アド・ブランディング代表取締役の川邊和明さんで、テーマは「人を生かす就業規則」です。経営者になったばかりの川邊さんは就業規則を「会社を社員から守るものだ」と考えていましたが、同友会に参加するうちに「働く環境にも指針が必要。経営理念と同じように就業規則も会社の法律だ」と気づきます。就業規則は、経営者と社員が対等な立場で双方が守るルールと言います。会社では就業規則に関する勉強会を開催し、個別面談をして毎年改定をしています。まさに社員と共に創る就業規則です。参加者からは「長年改訂をしていなかったが、報告を聞いて改定する必要性を感じた」との感想がありました。

大津支部例会

デザインの方で人が変わり会社が変わる

10月21日(金)13時10分から16時30分まで、大津支部コラボ例会(成安造形大学新産業創造委員会・大津支部)が成安造形大学で開催され、学生12名、会員24名等合計49名が参加しました。テーマは「デザインの方で会社は変わるのか?」。まず、デザイン経営について、由井真波氏(成安造形大学客員教授)より「デザインとは制作物を指すのではなく、ブランド価値を高め、イノベーションを実現する行動を伴う力」であるとレクチャーを頂き、デザイン思考で組織や商品が劇的に変化することを学びました。



統一しての実例報告では、大日陽郎さん(山科精器(株)代表取締役)からブランディングを皮切りに会社が変化した取組みが報告され、プロジェクトメンバーの吉野さんと西岡さんからその道のりを報告頂きました。受注生産を主とする地味な会社から、社内報の担当を期に何のために、誰に発信するのかを考えはじめ、「山科精器を良くしたい」と広報などデザインから見直し、社風を変えるために朝立ちして挨拶を行うなど、精力的に見える化が行われました。バカラだったパンフやユニホームも統一。今ではブランディング委員会が立ち上がり、展示会の企画や働き方改革を推進する部門になるなど、会社を変え中心となる役割を果たされている報告でした。

渡辺工業は、環境を考えた工業用塗装で日本のものづくりを支える会社です

塗装を中心に加工から組み立てまでを一貫対応

私ども渡辺工業は、創業90周年を迎えた実績と信頼により培われた技術とノウハウを用いて、短納期・小ロット・工場内塗装請負など、ご要望に合わせた納品体制により、お客様の生産活動をバックアップいたします。

- 工業塗装**
 - 工業塗装
 - カチオン電着塗装
 - 粉体塗装
- 金属加工**
 - パイプ加工技術
 - 板金加工
 - 溶接加工
- アッセン工程**
 - 一貫生産で短納期
 - 多品種少ロットに対応
 - 複雑な注文でも注文書1枚でOK



「想いをカタチに」企業の未来を考える会社です。

Honki

